

伊那市美術館協議会会議録（概要）

件 名	令和5年度 第1回 伊那市美術館協議会
-----	---------------------

日 時	令和5年7月24日（月）午前10時～10時50分
場 所	信州高遠美術館 2階研修室

出席者

関 係 者		教育委員会	
職 名	氏 名	職 名	氏 名
会 長	大脇 弘造	教育長	笠原 千俊
職務代理者	北原 秀志	教育次長	三澤 豊
委 員	伊東 重明	生涯学習課長	矢澤 浩幸
	米山 洋子	美術館館長	武井 文一
	松崎 和美	美術館副館長	馬場 文教
		美術館職員	藤澤八重子
欠席者	平澤きよ美		
	飯島 信子		
	伊藤 仁八		
	久保田文子		

会議内容（概要）

1	開 会
2	委嘱書交付 机上に交付
3	あいさつ ・教育長 梅雨があけて、各地で気温が高くなり暑い年になりそう。高遠城址公園を訪れる学校に屋根付きの施設である高遠美術館、歴史博物館を利用してもらいたい。 7月、3月に美術館協議会を開催する。美術館の運営をよりよくするために委員の皆様の協力をお願いしたい。 新型コロナウイルスも5類感染症となったが、引き続き感染予防対策を取りながらよりよい運営をするための工夫をするためにも委員の皆様の意見をお伺いしたい。 ・会長 本日の協議会では、令和5年度事業、令和6年度事業について協議して、美術館のよりよい運営につなげていきたい。
4	職務代理者の指名について ・生涯学習課長 前職務代理者の退任により、会長から新たな職務代理者を指名する。 ・会長 これまで伊那市公民館運営協議会から推薦されている委員に職務代理者をお願いしてきた。北原秀志委員を職務代理者に指名する。 ・職務代理者あいさつ 4月から長谷公民館長をしている。前委員の残任期間である令和6年7月までよろしく願います。
5	協議事項 （1）令和5年度事業について （事務局から資料により説明） ・「片岡鶴太郎展」の入館者数は、5,461人。コロナ禍の影響が大きかった令和2年度から4年度までに比べ入館者数が増加したが、前回、前々回の片岡鶴太郎展に比べると減少したのは、コロナの影響が残っていることと、観桜客の減少によると考えられる。 ・「美術交流展 2023 in 高遠」、「津野祐次バラ写真展」の入館者は、422人。貸館事業のため入館料無料。 ・「没後20年記念張替正次展」、「収蔵作品郷土作家15人展」の入館者は、7月22日現在476人。この後、美術品の寄付でご説明する三浦輝峰氏の作品も展示している。

- ・今後の予定、「若手アーティスト応援展」は、これまで開催してきた若手アーティスト展に参加した作家有志による展覧会。9月30日、10月1日は会館記念日により入館料無料、作家の物販等のイベントも予定している。
- ・「SMALL CORPORATION_JP_23（スイス作家2人展）」は、ワーケーション事業の一環として美術館で展覧会を行うもの。
- ・「第45回記念市民美術展」は、美術館と伊那市民美術会が共催事業として行うもの。
- ・貸館事業の「大澤政和展」、「ギャラリー円室企画展」にあわせて、第2展示室で「生誕110年記念田中春弥・辻村八五郎・平松譲3人展」を開催する。貸館事業のため入館料無料。
- ・「シンビズム5信州ミュージアム・ネットワークが選んだ作家たち」は、県内美術館の学芸員が協働し、広く知ってほしい作家を選抜して、県内4美術館で展覧会を行うもの。
- ・「地域のお宝展」は、市内の主に公共施設にあるお宝作品を集めて展示するもの。
- ・「池上秀畝生誕150年記念展」は、来年の観桜期に池上秀畝生誕150年を記念して県立美術館、練馬区美術館等と連携しながら開催するもの。
- ・市民ギャラリー展、アートスクール、楽々講座は、資料のとおり予定どおり行う。
- ・ミュージアムコンサートは、コロナの関係で開催する予定はない。令和6年度以降については、開催したいと考えている。
- ・東京藝大連携事業は、令和4年度縮小しながらもワークショップを実施した。今年度も先月藝大の先生、大学院生が打合せに来館した。今後、大学の提案を待ってワークショップ開催に向け詰めていきたい。

(質疑・意見)

委員

企画展とギャラリー展との違いは何か。

事務局

企画展は、主に展示室を使用し、委託事業を含め美術館が主催する展覧会と、貸館事業など協議会の許可を受けて開催するもの。ギャラリー展は、地域で美術活動をしている市民等に、発表の場として市民ギャラリーを利用しているもの。

会長

承認を求める。(承認)

(2) 令和6年度事業について

(3) 展示室貸館規定に基づく展覧会の承認について

(事務局から関連があるので資料により一括説明)

・(2) 令和6年度事業について

・観桜期展は、「池上秀畝生誕150年記念展」を3月2日から5月19日までの会期で開催する。

・続いて、第1展示室では「美術交流展」を6月9日までの会期で開催し、第2展示室は、江崎孝坪の生誕120年記念を中心に郷土作家作品を5月26日から8月25日まで開催する。

・次に、第1展示室では、山岸主計の没後40年記念を中心とした収蔵作家展を、6月15日から8月25日まで開催する。

・通算7回目になる「若手アーティスト展」を8月31日から11月10日までの予定で開催する。

・その後、第1展示室は、貸館の「ギャラリー円室企画展」を11月16日から12月1日まで開催し、第2展示室では、郷土作家と市内各施設で所蔵する作品を展示する「地域のお宝展」を令和7年3月2日まで開催する。

・次に、第1展示室では、収蔵されている郷土の現代作家展を3月2日まで開催する。

・令和7年の観桜期展は、3月8日から5月6日まで、一人と自然・歴史の世界一と銘打って、原田コレクションと郷土作家の秀作を一堂に展示する予定である。

・市民ギャラリー展は、記載のと通りの作品展を予定しているのでご覧いただきたい。

・(3) 展示室貸館規定に基づく展覧会の承認について

・1つ目は、「美術交流展2024in 高遠」で、2016年から続く群馬県を中心とした広範囲の作家と、地元作家との交流展。会期は、5月26日(日)から6月9日(日)までの13日間。第1展示室と市民ギャラリーに展示する。主催者は、美術交流展2024in 高遠実行委員会である。貸館料は、一日8,000円の13日間で104,000円になる。入館料は無料。

・続いて「ギャラリー円室企画展」で令和4年から3回目の開催になる。会期は、11月16日(土)から12月1日(日)までの13日間。第1展示室と市民ギャラリーに展示する。主催者は、ギャラリー円室。代表者は、陳斌氏。貸館料は、一日8,000円の13日間で、104,000円になる。入館料は無料。

・展示室貸館規程に基づき、上記展覧会の開催について、美術館協議会の承認を求める。

(質疑・意見)

委員

池上秀畝生誕150年記念展について、県外・県内を含めた企画について、どんなところでどんなことをするのか。

事務局

当館・高遠歴博・伊那県文・県立美術館・練馬区美術館が連携して企画展を行う。

当館は、外部から借用した展覧会のテーマに沿った作品や所蔵作品のうち代表的な作品を展示する。また、秀畝が使った画印を146点収蔵している。このような資料も含めて、普段見ていただけない作品を展示していきたいと考えている。

5館がそれぞれの特色を生かして、連携を深めて企画展を行う。

会長

(2)、(3)について承認を求める。(承認)

(4) 美術品の寄附について

(事務局から資料により説明)

- ・ 今回の寄附作品については、それぞれ美術資料選定基準に該当した作家である。
- ・ まず、1点目は、作者が江崎孝坪、作品名は「基地」、制作年は1942年である。材質・形状は紙本着色で、縦223センチ横200センチの二曲屏風、第5回新文展に出品した作品である。寄附者は、東京都板橋区の方で、寄附の経緯としては、自宅の移転などで保管が難しくなったことにより寄附をいただいたもの。
- ・ 次に2点目は、作者が山口進、作品名は「冬山（木曾駒ヶ岳馬の背）」、制作年は1960年である。材質・形状は木版画で、縦88.5センチ横113センチの額装で、山口進の代表的な作品である。寄附者は箕輪町の方で、寄附の経緯は、高齢になり、保管が難しくなったことによるもの。
- ・ 3点目は、作者が三浦輝峰氏、作品名が「御嶽遠望」、制作年は2000年である。材質・形状は油彩・画布、縦130.3センチ横194センチの額装の作品。寄附者は三浦輝峰氏ご本人。寄附の経緯は、原点である故郷への感謝を込めて寄付された。

(質疑・意見なし 承認)

(5) その他

委員

- ・資料が12ポイントの文字で作られていて読みやすく良いが、一部小さなポイントのところがあるので12ポイントに揃えてほしい。
- ・寄附について3人の説明があったが、現在進行中のものがあるか。
- ・日本画のボロボロな作品については価値がさがってしまうので、寄付を受けないほうが良いと思うが、もらわないこともあるのか。

事務局

- ・寄附の申し出があり進行中のものもある。寄附されない場合もある。
- ・資料11ページに記載してある美術資料等収集要綱の選定基準の中に、破損汚損が激しく、収蔵後に利用が見込めないものは収集対象としないことになっている。状態が悪くても極めて史料価値が高いものは、寄附を受けて修復する場合もある。

委員

- ・前回の協議会で説明があった作品2点の購入はどうなったか。

事務局

- ・昨年度の協議会で承認いただいた中村不折の油彩画と池上秀畝の軸について、今年度に入り購入の手続きを進め5月に購入した。

委員

- ・美術品の寄附は、どのような機会に話があるのか。また、寄附を受けた作品はどのように発表しているのか。

事務局

- ・寄附の申し出は様々である。寄附を受けた作品は、長い期間の展示は出来ないのでは、企画展のテーマに合わせて適宜展示している。

事務局から

- ・SNSを活用して情報発信をする時代になった。信州高遠美術館でもfacebookを開設し、情報発信を行うことにした。資料の裏面にあるQRコードを読み取って、是非、ご覧いただきたい。

6 閉 会

職務代理者

- ・次回の協議会は3月を予定している。これで、第1回伊那市美術館協議会を終了する。